

龍朔中婆閏死、妹比粟毒主領廻鶻、與同羅僕固犯邊、高宗命鄭仁泰、平僕固等、比粟毒敗走

と記せり、此の事は新唐書回鶻傳には何等の記載無く、又通典卷百九十八北狄突厥、及び舊唐書突厥傳には「自永徽以

來二三（舊唐書）作三十餘年、北鄙無事」と記し、一見舊唐書廻紇傳の誤なるが如く思はるれど、然も新唐書本紀には、龍朔

元年十月癸酉、鄭仁泰を鐵勒道行軍大總管に任じ、蕭嗣業・阿史那忠等と共に鐵勒を討たしめ、翌二年三月庚寅、

仁泰は鐵勒と天山に戦ひて之を破れりと記し、又兩唐書の薛仁貴傳及び契苾何力傳、新唐書の拔野古傳にも鄭仁泰

の鐵勒征伐の事を記せり、而して此等の事實が、舊唐書に記せる所、即ち比粟毒が回鶻を領し、同羅僕固と共に邊

を犯したる時、仁泰に命じて征伐せしめたる事實に相應するものなることは、次篇三四に於て論證せるが如くにして、

實に舊唐書廻紇傳の此の記事は、此の際に於ける九姓鐵勒の離叛が、回鶻の主動に歸因するを明かにせるものなり

とす。

此の時比粟毒の下に附して唐に叛きたる諸部は、龍朔二年鄭仁泰等に擊破せられしが、兩唐書薛仁貴傳によれ

ば、此等の諸部は一たび天山地方に敗れて後、更に深く唐軍の爲に追窮せられ、翌三年春正月には、鄭仁泰は更に

叛衆の餘種を撃ちて、盡く鐵勒諸部を平定せり、唐會要卷九十八に「龍朔三年二月、移燕然都護府於廻紇部落、仍改名

瀚海都護府、其瀚海都護府移雲中城、改名雲中都護府、仍以磧爲界、磧以北諸州爲蕃州、悉隸瀚海、磧南並隸雲

中」と記せるは此の征服の結果に外ならず。三六 a

然るに武后の時に至りては、一旦衰亡したる東突厥は、可汗默啜の下に其の勢力を恢復し「地縱廣萬里、諸蕃悉

聽命」（新唐書）と記さるゝが如き隆運を拓くに至りしかば、回鶻も亦た其の壓迫を蒙り、遂に前記新唐書回鶻傳に